2023.01.23　全校朝会講話

チョコレートの話

校長　松本　雅史

　新しい年がスタートしてそろそろ１か月になります。みんな、今年の目標を立てたと思います。その目標に向かって、自分はどこまで頑張れているか振り返って、この１月を１年の目標に向かって挑戦しているぞという手応えのある笑顔の月にしていきましょう。

　さて、今朝はチョコレートの話をします。

　皆さんは、チョコレートは好きですか。先生は、とても好きです。特に疲れたときに食べるチョコレートは、とてもおいしいです。このチョコレートですが、世界で一番たくさん食べられている国はどこだと思いますか。それは、スイスというヨーロッパの国です。一人当たり１年間で８．８kg食べている計算になるそうです。これは５日で２枚の板チョコを食べているという感じです。２位はオーストリア、３位はドイツです。みんなヨーロッパの国々です。日本は、というと３１位です。一人当たりだと２．１kg で、先ほどのスイスの４分の１ほどです。１０日に１枚の板チョコを食べている計算です（出典: euro monitor international）。

　では、このチョコレートですが、原料はカカオ豆というカカオという木の実です。カカオは、１年中暑い南の国々でつくられています。世界で一番たくさんカカオ豆をつくっているのは、アフリカのコートジボワールという国です。世界全体の５分の２をつくっています。第２位はガーナでこれもアフリカの国です。日本からはずいぶん遠い国々です。

　このカカオ豆作りについて、信じられない問題があると言われています。それは、この豆作りの仕事を大人だけでなく、子供も行っているというものです。勉強の合間に家の仕事の手伝いで頑張っているという話ではなくて、しっかり労働者として朝から晩まで働いていているというものです。このように子供なのに働かせられている子どもの数はコートジボワールには７９万人もいて、

学校にいったこともない子供も多くいることが分かりました（国際協力 NGO　ACE ホームページより）。日本は、カカオ豆のほとんどをガーナという国から輸入していますが、ガーナでもこの子供が働かされている問題を大きく抱えています。その他にも、カカオの木を植えるために、大切な森をどんどん切ってしまい、野生の動物たちがどんどん少なくなったり、種類によっては絶滅してしまったりしている問題もあります。こうした問題が起こる大きな原因は、こうした国々の人たちの貧しさにあると言われています。子供はただ同然で働かせることができるからです。チョコレートを買う方は、なるべく安く買いたいですから、子供が働いているという問題を知っていてもつくっている人から安く買おうとします。買う方がつくっている方より強いと、作っても作っても豊かになれないということになります。私たちがおいしくチョコレートを食べている裏には、こんな現実もあるのです。すると、こんなことが許されていいはずがない、つくっている人も豊かになれる値段で取引しようという会社が出てきます。こうして取引した会社のチョコレートは、他より少し値段が高いです。でも、カカオ豆をつくっている人たちを笑顔にし、子供が働かなければならない問題の解決をすすめてくれます。こうしたチョコレートは、フェアトレード・チョコレートといいます。まだまだ数は少ないですが、確実にお客を増やしています。

　カカオ作りに子供を働かせていないことが認められたカカオ豆もあります。こうしたカカオ豆を積極的に使ってチョコレートをつくろうという会社も出てきました。私達の小平市内にある有楽製菓もその一つです。「ブラックサンダー」というチョコレートをつくっています。皆さんも食べたことがあるかもしれません。

　子供を無理に働かせたり、自然を破壊したり、今地球上には様々な問題があります。しかし、そうした問題に力強く立ち向かっている人たちもいます。そうした人たちを知って、応援することも、地球をよりよくしていくことにつながると思います。

　今朝は、チョコレートを通して、地球の問題を考えました。これで今朝のお話は終わります。